

# 第 2 回 白井市在宅医療・介護連携研修会

## 「多職種で支える摂食嚥下障害のある方への支援のあり方」

平成 29 年 12 月 19 日 in 白井市保健福祉センター 団体活動室

市内の医療・介護職がメンバーとなっている多職種連携研修企画ワーキンググループが企画した第 2 回研修会が「摂食嚥下」をテーマに平成 29 年 12 月 19 日（火）に開催されました。

今回は、摂食嚥下障害の基礎知識や摂食嚥下機能評価、摂食嚥下外来の取り組みや地域連携のあり方について、新八千代病院で摂食嚥下に関わる専門職（歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士）を講師に招き、講義をしていただきました。

研修後半のグループワークでは、北総白井病院訪問リハビリの言語聴覚士の方から事例報告を行っていただき、在宅療養上の課題や支援の方向性についてグループごとに検討しました。

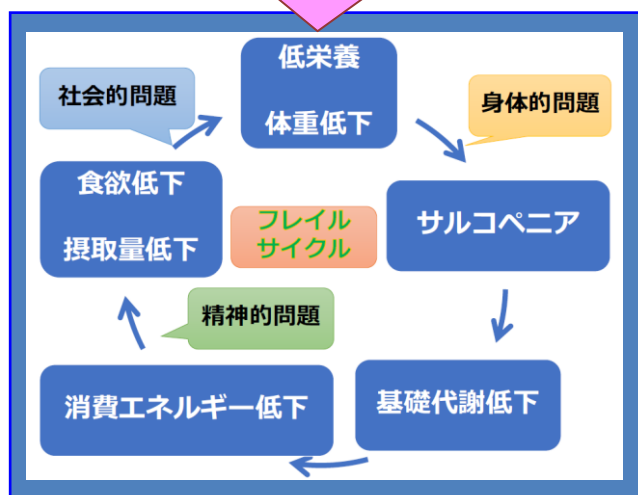
お忙しい中、ご参加いただいた 50 名の医療職、介護職の皆様、ありがとうございました。

### 「高齢者・嚥下障害者への対応」

#### ～栄養士が目線～

新八千代病院 管理栄養士 大嶋 晶子 氏

#### 気をつけたい「フレイルサイクル」



### ＜ 第 1 部 レクチャー ＞

#### 「摂食嚥下外来受診をする前に」

新八千代病院 歯科衛生士

日野 多加美 氏

#### 摂食嚥下検査にて

病態を診断することによって

↓  
どの種類のリハビリが個々の嚥下障害者に有効か判断

↓  
次の検査までの目的や目標が決まる

嚥下検査は誤嚥の有無のみを診るのが目的ではなく  
病態を診断することが目的なので多くの情報が必要

主病名・既往歴の把握をしたうえでの対象者の全身を観察



### 「多職種で支える摂食嚥下障害のある方への支援のあり方」

新八千代病院 言語聴覚士

石橋 尚基 氏

#### 在宅・施設現場における課題について

在宅療養者が自身の嚥下機能に応じた栄養摂取方法をとっていない現状である

過小  
評価

- 胃瘻を造設後に永久的に経口摂取の禁止
- 退院時からゼリーしか経口摂取していない

過大  
評価

- 毎食むせながら常食を食べている
- 誤嚥を繰返しても、入院時の摂食条件を継続

退院時の評価が更新されていない

在宅・施設で嚥下リハビリを継続する環境を作ることが重要

「食べられない」  
訴えの裏側  
には、様々な原因  
があります！

#### 「食べられない」の裏側



## 《 第2部 グループワーク 》

北総白井病院リハビリテーション科 中村言語聴覚士から、多職種連携により在宅生活での摂食嚥下機能の改善が認められた事例の報告を行っていただきました。その後、多職種で構成されたグループで在宅生活を支援していく上での課題や支援方針について話し合いました。



今回の事例で多職種連携がスムーズにいった背景として、多職種が情報交換しやすい環境だったこと、支援の方向性の統一が図れたことなどがあげられました。

グループワークでは、多職種が顔を合わせて話をすることで、職種による役割や視点の違いを理解しあうことを目的にしています。



### 参加者アンケート集計結果報告(抜粋)

#### 【職種】(回収数 39)

ケアマネジャー 10 名  
リハビリ職 14 名  
介護職 5 名  
薬剤師 2 名  
管理栄養士 2 名  
歯科医師 1 名  
歯科衛生士 1 名  
看護師 1 名  
その他 3 名

#### 【参考になったレクチャー内容】※複数回答

摂食嚥下外来の取り組み	29	チームアプローチと地域連携	25
摂食嚥下障害の基礎知識	18	摂食嚥下機能の評価方法	18
在宅・施設現場における課題	10	栄養評価	10
在宅・施設での訓練例	13		

#### 【摂食嚥下に関連する項目でさらに学んでみたいこと】

- ・摂食嚥下障害がある方への訓練についてもっと知りたい
- ・訪問歯科との連携方法の具体例
- ・在宅での嚥下リハの状況、現在の問題点
- ・介護職にも出来る嚥下訓練、口腔体操について詳しく知りたい

#### 【グループワークを通して、職種による視点や役割の違いについて理解が深まりましたか】

- ・理解が深まり、今後相談したいことがあったときには相談できる関係になった 20 名
- ・理解は深まったが、今後相談したいときに連絡できる関係までは築けなかった 17 名
- ・もともと他職種の役割について理解できているので、あまり変わらない 0 名
- ・グループワークを終えても他職種の役割について理解は深まらなかった 0 名



次回の研修会は、2 月に開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。